



第3回 CXDS 「協創サロン」

2021/3/8

一般社団法人体験設計支援コンソーシアム

体験設計協創サロンとは

現在取り組んでいるもしくはこれから取り組もうとしている、製品/システム/サービスや用途開発中の技術などについて、公開できる範囲で**話題提供**いただきます。

体験設計の視点からさまざまな立場でフリーにディスカスすることを通して、**新たな発想**にもとづき用途、取り組み方を提供/支援するとともに、**協創に結びつく機会（場）を持つこと**を目的にしています。

第1回体験設計協創サロン

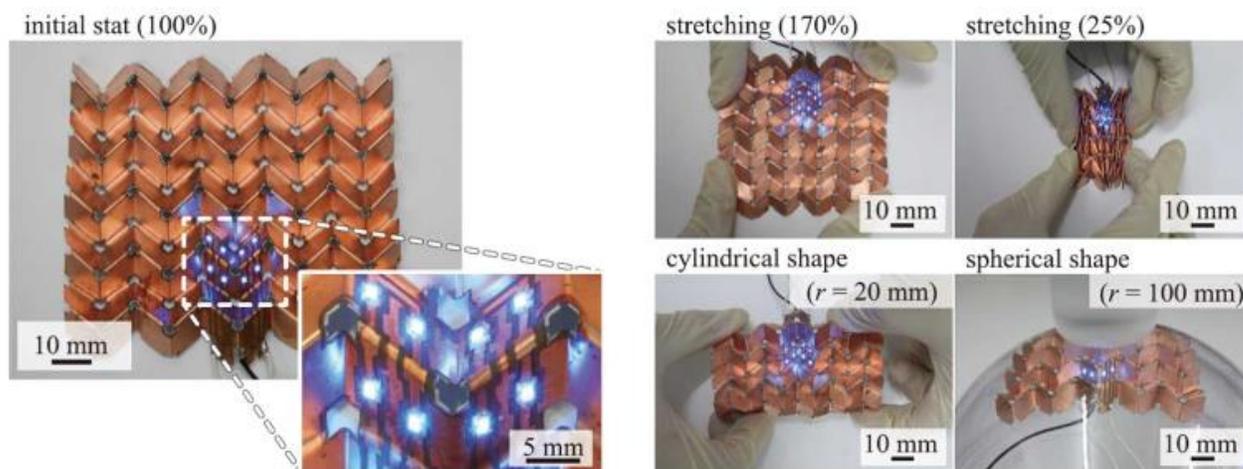
テーマ「折り紙構造を用いた曲げ・伸縮可能なフレキシブル電子デバイス」

・提案者 早稲田大学 岩瀬先生 PCIソリューションズ 堀部氏

材料を伸縮させずに、折り紙構造を用いて、

硬い電子部品や延伸性の低い金属配線を用いたまま

デバイス全体としては曲げ変形や伸縮変形が可能なフレキシブル電子デバイスを実現する



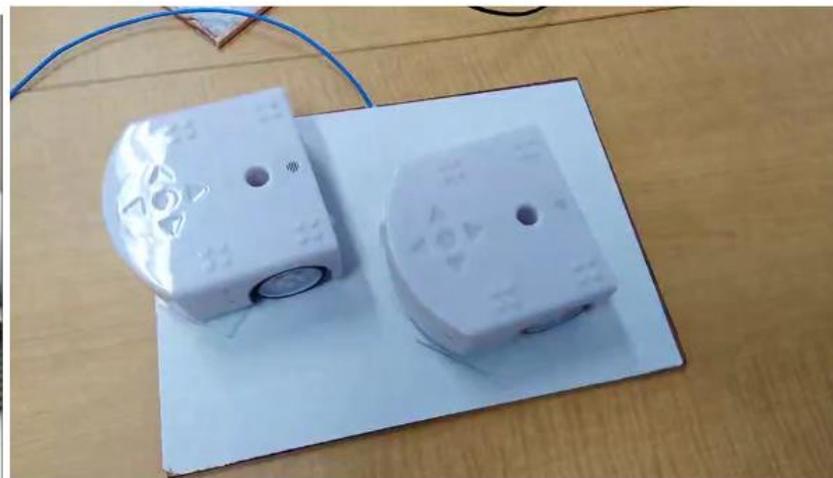
第2回体験設計協創サロン

テーマ「ケーブルでもバッテリーでもない、全く新しい給電方式テスラシート無線給電」

・提案者テスラシート株式会社 最高技術責任者 (CTO)服部聖彦氏

テスラシート

- 1.印刷技術で製造できる電力伝送シート
- 2.複数デバイスや可動体への無線給電が可能



完全無電池可動



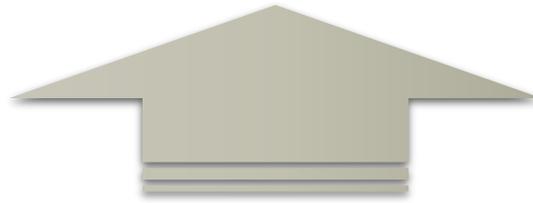
体験設計

第3回協創サロン

定義すれば?

経験価値=Experience Value

経験価値は偶発的、意図的を問わず過去の事象とその連携から得る利益



体験設計=Experience Design

体験設計は価値創造を目的に意図的に企てられた

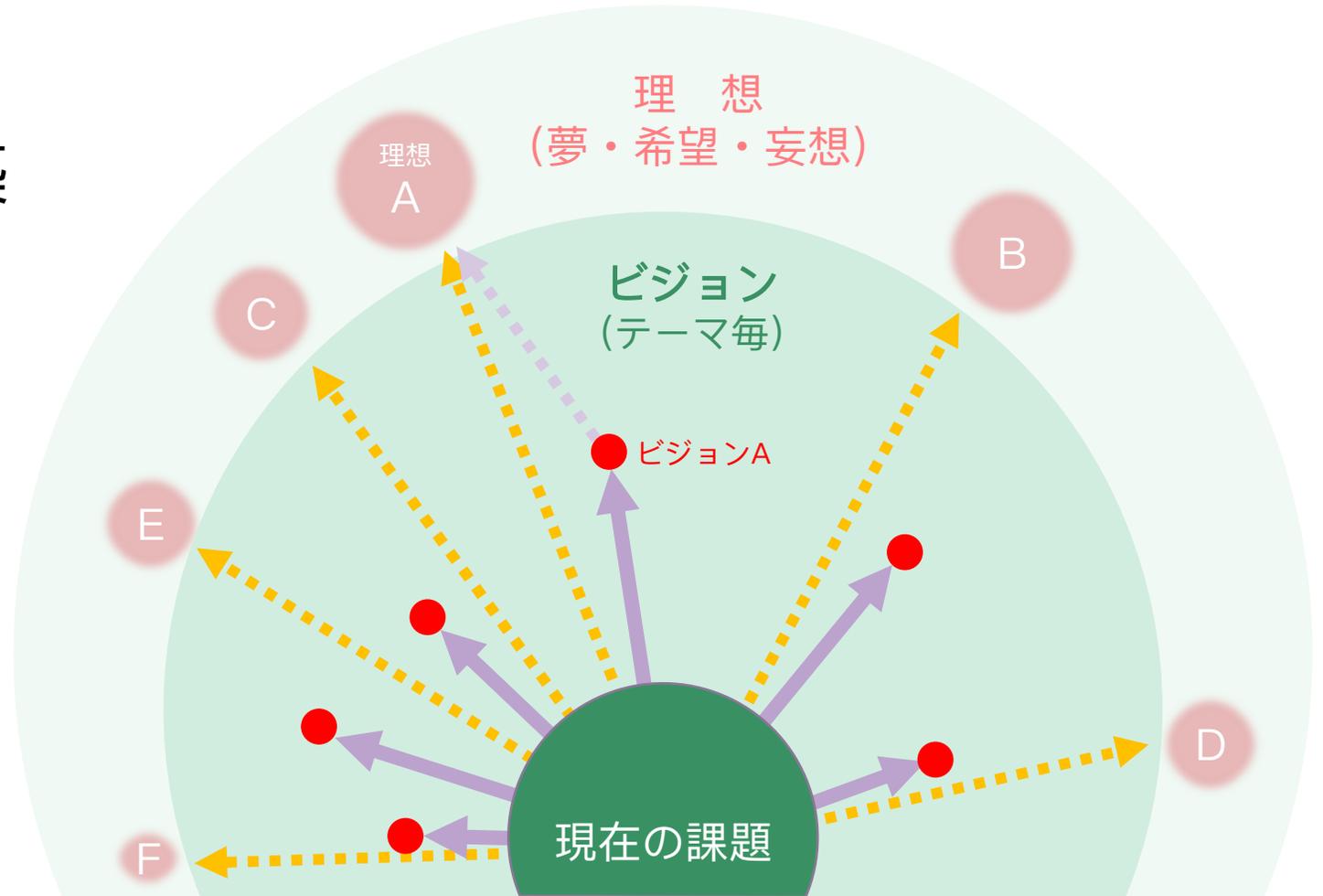
未来の事象連携を創造する行為

ビジョンとは何か

「理想に近づくための共感できる近未来へのアプローチ」

理想に対するビジョン構築

- ビジネスの方向性
- 現実的な時期
- 文化、文明への対応
- 環境、社会への対応
- . . .



体験ステージの設計



ユーザーやステイクホルダとの共創の場

体験設計の基本的な視点とは

ユーザーへの提供価値からの発想

この〇〇が、何に使えるかよりは、この〇〇によって、「ユーザーにどのような優れた、嬉しい体験価値を提供できるか」で自由に発想する。

「今までの悲しさ、面倒くささを解消してくれるのは当たり前、(今まではできなかった) ●●ができることによって、どんなうれしい体験ができるようになるのか」

→その結果、普段の行動や生活がどのように変わるのか

人(ユーザー特性)、場(利用状況)の視点

- ・この〇〇を利用したい人は、はどのような特性、特徴を持った人(達)か
 - ・この〇〇を利用したい人は、どのような状況の時なのか
- 「どのような人が、どのような状況の時に」使えると嬉しいのか

第3回体験設計協創サロン

- 本日のテーマ

「振動の見える化ツール 沢山の用途がありそうな振動解析装置 (EMQuest) 」

- 提案者

ユークエスト株式会社

テーマ創りのヒント

ひと

振動を見える化

場

第3回体験設計協創サロン進め方

15:30 - 16:00 テーマの説明（ユークエスト 四ツ谷様）

16:05 - 16:35（グループに分かれるかも）

- 簡単な自己紹介
- 体験設計の視点から提供価値の討議（人と場からの自由な発想）

16:35 - 17:00 各グループからの発表とまとめ

協創サロンでの話題提供をお待ちしています！

体験設計の視点からさまざまな立場でフリーにディスカスすることを通して、新たな発想にもとづき用途、取り組み方を提供/支援するとともに、協創に結びつく機会（場）を持つ協創サロン。

現在取り組んでいるもしくはこれから取り組もうとしている、製品/システム/サービスや用途開発中の技術などについて、話題提供いただけるテーマを募集中です。

(参考) 体験設計協創サロン概要

- **参加資格**

CXDS会員 + 会員の紹介者

- **募集/告知**

CXDSホームページ、会員宛ML、メルマガ

- **参加費**

無料

- **公開**

- サロン開催後、テーマ、公開可能な資料、協業/支援内容、連絡先などをまとめ、開催報告をホームページに掲載

に掲載する

- 必要に応じて、協創の概略進展状況はホームページに掲載

(参考) 体験設計協創サロン概要

• 話題提供内容

- 知財上、公開できる範囲とする
- 協業、支援を具体的に求める場合は、その内容を明示する
- 人材募集を主目的とした話題提供は取り上げない

• 協業の方法

- 話題提供者に対し個別に交渉する 協業進捗、結果の概略報告いただく
- 協創の結果としての知財は当事者間とする
- CXDS会員同士としての紹介もある

• 成果紹介

- 成果が公開できる場合は、積極的に体験設計認証へ申請いただく